



奉仕団ニュース

社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
URL: <http://www.jcws.or.jp/houjin/houjintop>

第21号 2015年11月

Tel 03-3202-0486
Fax 03-3202-0487

キリスト精神の展開のため

理事長 山田 貫司

1. 理事長就任ご挨拶

4期8年、評議員就任から数えますと26年間奉仕団の働きを支えてくださいました、禿準一前理事長の退任の後を受けて、9月より新理事長に就任いたしました。前理事長は近年、両センターの周年事業、板橋工場の建替えなどへの対応にリーダーシップを発揮されました。多くのお働きに心より感謝申し上げます。すでに、着任のご挨拶をさせて頂いた方達もおられますが、あらためて新理事長としてご挨拶させていただきます。今後とも皆様の奉仕団への継続したご支援をよろしくお願い申し上げます。

2. 70年目の節目を迎えるにあたり

日本キリスト教奉仕団の前史である1946年に開始した、LARA（アジア救援公認団体）救援物資の取り扱いから数えますと、来年で70年目を迎えます。何事にも節目というものがありますが、聖書の中には、モーゼの荒野での40年、イエス様がサタンに挑まれた40日の断食の日々、バビロンでの捕囚の70年間など、節目になる事柄が語られております。この節目に理事長に就任いたし、特別の緊張感を持っております。新理事長として次の様な取り組みをしてまいります。

(ア) ミッション（使命）の確認

本年7月に開催いたしました法人役員、職員研修会で「ミッション（使命）」の再確認と、ヴィジョン、理念、行動規範に関してのディスカッションをいたしました。「アガペ（見返りを求めない神様の愛）」によって、共に生き、共に歩み、支えあって未来を創造する」というミッションステートメントの意味を再確認し、従前からあります広報資料、記念誌など見直し、ヴィジョン、理念、行動規範を再度整理する必要性を共有いたしました。法人全体として一体感のあるメッセージが発信できますよう、利用者様、職員の声を広く聞きながら進めてまいります。

(イ) 障がい者社会福祉施設に求められるもの

戦後70年ということで、障がい者に対する社会福祉について考えてみますと、社会インフラの整備、企業での障がい者雇用推進、そして産業を支える技術革新、さらに産業のグローバル化など、取り巻く環境は大きく変わっております。一般企業、行政と

の関わりを更に深め、将来に渡って有意義な社会福祉施設で提供するサービスの質・種類を明らかにできるような、ヴィジョンを築いて参りたいと存じます。



(ウ) 経営課題の確認と組織の活性化

2013年に施行されました、障がい者総合支援法の背景などを鑑み、障がい者複合社会福祉法人として次の30年～50年を見据えて、今何をするべきかの検討を開始いたしました。前理事長の下、組織されました「経営委員会」を軸として会議体のあり方、参加者の見直しを行い、組織が活性化して、明瞭な課題の認識・共有と、改善目標を見えるように取り組むことにいたしました。7つの大項目とその下にある25程度の取り組むべき課題を洗い出し、それぞれにリーダーとメンバー、期限を設けて進めてまいります。

3. 事実は現場にしか存在しない

私が理事長に着任して、全役員・評議員と職員に向けて「理事長だより」を発信いたしました。2年前に評議員をお引き受けし、昨年からは経営委員会のメンバーに加えさせていただき、法人内外の方達、社会福祉の現場と触れ合ってきました。今後の社会福祉法人の運営・経営のリーダーは更に、現場密着であるべきと伝えております。私どもの提供するサービスは就学前の障がい児童支援から、就労継続支援、就労移行支援、長短期の入所、またそれらの中で2つのレストランの経営を始め各種の事業があります。更に公益事業として、アジア研修交流事業、図書館複写事業なども取り組んでおりとても複雑・多様です。一方でこれらを有機的に組み合わせて運営することで、求められるサービスに対して先駆的な取り組みができるかと信じております。毎日の活動と距離をおかず肌で感じることでできる場に、常に自分自身をおいていきます。理事会・評議員と共に「アガペ」の精神での運営にあたりますので、どうぞ皆様私どもと、心をひとつにしてお祈りくださいますようお願いいたします。

五季の心を



2015年4月にアガペセンター長に就任しました田中誠一と申します。引き続き、アガペセンター事務長とアガペ壱番館館長を兼務しておりますので、ご指導とご鞭撻をお願いいたします。

近年、世界の各地で温暖化によるものなのか雨による水害が多くなっており、日本も各地から悲しい報告が届くことも少なくありません。9月にアガペセンターの被災地研修で職員と共に宮城県の名取市閑上地区、南三陸町、石巻市を訪問した時も、前日からの台風による大雨で仙台駅に着いたものの、新幹線を除く全ての在来線が運休しているとともに、宮城県内の一部地域で水害による被害を生じているとの事でした。

しかし、日本の6月から7月は雨の季節です。街のなかでは聞くことが無いでしょうが、田んぼや池のある場所によっては蛙の合奏が騒がしい程の地域もあるのではないですか。日本は古来より春夏秋冬に梅雨期を加えて五季の国であると言う人もいる位、この雨の季節は際だった特徴的な時季ではないでしょうか。

南北に長い日本列島は毎年、南から木々が芽吹き花の春や緑の春を迎え、じめじめとしてうっとうしいと感じる人や、田植え後の水田に降る雨に濡れて美しさを強調する紫陽花の梅雨期、綿菓子のような入道雲が絵になる酷暑の夏を過ぎると、大雪山系の山々から紅葉・黄葉の知らせとなり、秋の訪れを楽しんでいる間に街路樹の落ち葉が舞いはじめ、北国からは初雪の便りが届く冬となります。このように、五季の国であるからそれぞれの季節感を目で楽しみ、肌で感じる心豊かな国民になったのではないのでしょうか。

私達アガペセンターの職員も、就労・介護・生活・相談支援等各種の専門職員としてチームアプローチに努めておりますが、今日までに培った利用者支援のプロとして「清き・強き・深き・広き心で」一人ひとりの利用者へと向き合うと共に、地域住民・企業・障がい福祉施設・事業所と連携をはかり、確かな歩みを進めてまいります。

「社会体験プログラム」について

アガペ第1・第2作業所では、「就労移行支援サービス」と「就労継続支援B型サービス」を提供しています。一般就労を目指す利用者を支援する就労移行支援サービスでは、就職に必要なスキルを身につけるトレーニングやプログラムの一層の充実を図っています。

社会で役割を担って働くことを、日々の仕事を通じて支援する就労継続支援B型サービスでは、独自のプログラムとして「社会体験プログラム」を今年度より本格的にスタートさせました。まだ始まったばかりの企画ですが、少しずつ目指す形がみえてきたように感じています。社会体験プログラムは、働く生活をどのように豊かにしていくか、広がりがもてるようにしていくかがテーマになっています。

「施設見学」、「ボランティアワーク」、「作業種別見学」が大きな3つの柱となっており、月1回のペースで開催しています。9・10月は、さまざまなボランティア活動を行いました。座間市主催の「相模川クリーンキャンペーン」への参加はそのひとつです。約1800名の市民とともにゴミ拾いに汗を流しました。ボランティアにどれくらいに関心があるのか未知数でしたが、相模川クリーンキャンペーンには8名の方が名乗りを挙げました。動機は人それぞれでしょうが、「人の役に立ちたい」という気持ち

が根底にやはりあったのだろうと、当日の様子をみて感じています。施設見学などほかの企画もそうですが、自主的な参加を基本としています。ご家族と相談して決めている方も多いと思いますが、今後も、できるだけ自分で手を挙げたものに参加するプロセスを大切にしていきたいです。



持ちは根底にやはりあったのだろうと、当日の様子をみて感じています。施設見学などほかの企画もそうですが、自主的な参加を基本としています。ご家族と相談して決めている方も多いと思いますが、今後も、できるだけ自分で手を挙げたものに参加するプロセスを大切にしていきたいです。



座間市サニーキッズ

座間市より業務受託をし、7年が経過しました。サニーキッズには障がいを有するまたは発達に心配のある0～就学前の乳幼児が通園をしています。ほとんどの場合、子どもたちが初めて属する集団となり、保護者においては何ら

かの心配や不安をもって通園開始となります。そのような親子に対し、小さな集団を介して療育をすすめながら、基盤となる親子関係の構築を支援しています。大人たちはつい、苦手なことやできないことに目が行きがちですが、子どもは無限の可能性を秘めており、ゆっくりではあります。が、一歩ずつ着実に成長をしていきます。保護者を含め、周囲の大人たちが子どもを信じ、寄り添いながらともに歩むことで、子どもたちは更なる一歩を踏み出す力を育むことができるのではないかと考え、本人を取り巻く環境も捉えながら支援をするよう心掛けています。

サニーキッズでは体操や集会、製作・体を使った遊び、

お散歩や季節の行事など、お友達と楽しみながら多くの経験を重ねる場を提供し、保護者とともに将来を見据えながら、子どもたちの成長を見守っています。これからも親子にとって、安心できる場所、よき応援団になれるよう邁進していきたいと思います。



〒175-0082 東京都板橋区高島平 9-42-7

アガペ東京センター

Tel 03-3935-2601
Fax 03-3935-2688

東京都板橋福祉工場

アガペ東京センターは2014年度に創立40周年を迎えました。2015年3月14日には第一工場の竣工に合わせて創立40周年・竣工記念式が行われ、70名を超えるお客様をお迎えすることが出来ました。記念礼拝は竣工して間もない第一工場の多目的ホールが使用され、関係の皆様からご祝辞をいただきました。また記念パーティーには坂本健板橋区長様もご出席くださり「障がいのある方にとっての様々なチャレンジの場所になってほしい」とお話しされ、これからの新たな出発をお祝い下さいました。



<就労継続支援 A 型>

2015年1月に竣工したばかりの第一工場への引越が行われました。大型カメラ、現像機、スキャナー、サーバー等仕事に使う機材一式を新工場の2階に移設して新たなスタートを切ることが出来ました。

長い工場の歴史の中で新工場の竣工と引越は大きなエポックでしたが、今年度11月までには、定年を迎えられた方が4名いらっしゃいました。工場の長い歴史と世代交代の節目を感じます。作業所としては昨年からの課題であ

る内作率の向上に取り組んでおります。また売上高の確保が非常に重要なテーマとなっており、新たにオンデマンドプリンターを設置し、画像処理、マイクロフィルム撮影、スキャニング以外に一般印刷の分野にも参入して受注活動に全力を尽くしております。A型は福祉と一般就労の中間に位置する仕組みですが、いままで以上に一般企業に伍して自立した運営内容を持つ組織として脱皮すべく鋭意努力中です。

<就労継続支援 B 型・就労移行>

4年目を迎えた2015年4月、3名の方の入所式を行いました。その後も福祉事務所などを通して入所された方が、5月、6月、7月と毎月続き、11月現在で利用者は28名になっております。昨年度当初は17名でしたので、当時を比べると10名以上の増員となっていますが、今年1月に引越をした新しい事業所の3階フロア全体を使用しており、スペース的には余裕があり、伸び伸びと受注作業をしております。また、新しい事業所では「レストラン」「植物工場」と新規事業もスタート。それに合わせて利用者の方も配置しました。それぞれ希望をとり、レストランでは今迄に6名、植物工場では4名の利用者に作業をして頂いております。新規事業を軌道に乗せていくかたわらの利用者支援ですが、評価制度を取り入れたりしながら利用者の作業能力向上にも力を注いでおります。

そして5月からは就労移行事業を始めました。長年に亘って培った就労A型(福祉工場)のノウハウと多様な就労訓練の仕組みを生かして一般就労への架け橋になりたいと考えております。

新規事業に注目が集まる中、それに携わる職員も増えました。「今まで障がいをお持ちの方と接する事がなかったが、今後は関わって行きたい」との理由で入られ方が多く、障がい者支援の新たな良き理解者が増えたことも喜ばしい

限りです。利用者支援を中心に、職員間の連携を以前より密にし、事業、支援が両輪となり、発展していくよう邁進して参ります。

国立国会図書館複写受託センター

国立国会図書館複写受託センターは、業務開始より14年目を迎え、11月には2016年4月からの契約更新に向けて、複写事務委託の提案書の提出のために準備に入る時期なのですが、今年は国会図書館側が公募内容変更のため、準備に手間取っています。今回の公募要件は、著作権の外れた資料のデジタル撮影がようやく始まることになり、仕様書の内容も大きく変更になります。板橋福祉工場のデジタル撮影の技術がありますので、何の問題もなく作業の体制作りが可能です。現在の状況下では引き続き、複写事業の受託は可能だと判断しています。さて、2015年度は昨年度と比較すると8月～9月にかけて、天候が悪く来館者が減り売上が大きく落ち込んだものの、10月になって持ち直し、昨年並みの売上が達成できるのではないかという見通しが立ち収支も大きく改善できそうです。現在の大きな課題は募集をかけても作業員がなかなか集まらないことにつきま。欠員が数名でありますが、繁忙期をどのように乗り切るかが課題です。コピー作業は1日中立ち仕事で、重い本のコピーもありますので、20代男性の作業員を想定しているのですが、これからは世の中の流れに沿ってもう少し柔軟に募集をかけていくことになると思います。2018年からの国会図書館の新システム移行にからみ、課題もありますが、複写センターとして今後も継続して仕事が続けられるように努力していきます。

新宿区立新宿福祉作業所

新宿区立新宿福祉作業所の2015年度は指定管理の第3期のスタートの年となります。これまで8年間にわたり、利用者さん支援、工賃の向上、地域との関係づくりなどに取り組んでまいりました。特にここ数年の地域の方々や企業さんの、作業所を通じた利用者さんとの関係が多くなっているように感じます。昨年から引き続きCSR事業の推進が進められ、今年度も新しくいくつかの企業さんからご要望も頂いております。また目白大学さんとも久しぶりにパンやアクセサリーの販売をさせていただき、うれしい限りです。そのような中で、今年3月にはコーヒーショップのスターバックスさんのお付き合いの中で、FUKUSAKU HANAKOの台紙をスタバさんのタンブラーにプレゼントとして3回にわたり使っていただき、期間中は多くの利用者さんがスターバックスさんでお



茶会をしました。また、等身大という、アートプロジェクトにも新宿東ブロックの店長さんが大勢来ていただきモデルになっていただくという事もありました。これからもこうした繋がりにより、利用者さんが地域の方々と関係する機会が増えるよう努力をしていきたいと考えます。

作業所では新しい事業として、今年度プリント事業に取り組んでいます。これはTシャツやエプロンなどの衣類に、オリジナルプリントをデザインしたり、マグカップに写真やロゴをプリントするという作業です。プリント事業は、作業所の保護者会である“若葉会”さんよりの寄付が始まりとなり、地域の企業さんの助成金もいただきながら開始することができました。このプリント事業は受注作業グ



ループにて行うことが出来、ベーカリーとアクセサリーに次ぐ3つ目の自主事業として取り組んでいます。現在国の取組みである“優先調達推進法”などとの関連も考えなが

ら、いろいろなところからお仕事を頂くとともに、利用者さんに色々な作業を振り分けられようしていきたいと思

スマイルマーケット高島平駅ナカ店

スマイルマーケット高島平駅ナカ店は2009年12月4日オープン以来早6周年を迎えることができました。これもひとえに板橋区様、東京都交通局様、出店して頂いている区内福祉園様、作業所様、NPO法人様、アガペ東京センター関係者、ご来店頂きました多くのお客様のご支援の賜物と感謝申し上げます。店舗展開におきましては、数多くのご指導を頂きながら、お客様、関係者様のご要望にお応えべく、いろいろな手法を取り入れながら販売活動を実施してまいりましたがまだまだ改善の余地が数多くあることを認識し次の展開へ進めているところです。店舗の大きな目的である、施設利用者の工賃向上、店舗における販売実習による就労支援、福祉のネットワークを生かした販売促進、地域をはじめ、店舗設立の趣旨をご理解いただいている企業様との連携により、販売活動を実施してまいりましたが、新たに近隣の商店会様との連携も予定されております。店舗販売にとどまらず、企業様からの定期的なご注文もいただけるようになりました。

2015年11月30日より12月4日まで店舗におきまして、創業祭6周年記念販売会を参加団体14施設様と合同で実施いたします。特徴としては複数施設様、板橋区様のご協力による、「りんりんちゃんセット」の販売また、岩



手県星雲工房様のみそクッキーをはじめ数多くの施設様の自主生産品を数多く取り揃えてご来店をお待ちしております。この機会に是非お越し頂きご指導いただければ幸いに存じます。また各種ご贈答品、記念品等のご注文も承りますのでお気軽にご相談ください。

東京都板橋区高島平 8-2-1 (都営地下鉄三田線「高島平」駅西口構内)
03-5922-4838 営業時間：11:00～19:00 土日祝日休

板橋区障がい者就労支援センター

板橋区からの委託を受けスタートしたハートワークの取り組みも早や3年7か月。2015年9月末日現在登録者数672名、うち就労者数は449名となりました。2013年4月から民間企業での雇用率が2%になったことを受け、もたらされる求人情報は大幅に増加し、就労を希望する方々にとっては選択肢も広がり、好機到来と思われましたが、実際には、仕事の切り出しが充分練られず、担当窓口不在のまま障がいのある方の受け入れを進める企業も多く、就労者数は増えても、短期での離職者を急増させる結果に繋がっています。

このことから、昨今では、短期離職を防ぐために就労前のアセスメントを重視し、本人の適性に沿う就労先を開拓することは勿論、就労前の体験実習を重視する中で、本人も企業も相互に理解し合ったうえで応募、採用を進めるこ

との重要性が広く認識されるようになっていきます。また、これまでも生活支援と就労支援を一体的に提供する観点から取り組みを進めて来たハートワークでは、余暇活動の取り組みなども含め、従前から就労後の定着支援に重きを置いた支援内容を重要視して来ましたが、しかしここ数年来、年々増え続けている就労者数に支援自体が追いつかない実状もあります。とりわけ特別支援学校や、また昨今では就労移行支援事業所等との定着支援に関する役割分担と連携について都内各就労支援関係機関でも議論が活発になっていますが、もとより当事者の皆さんにしてみれば、所属していた機関、事業所からのフォローという形で就労後の定着支援を受けられれば安心感も得られ、何よりも円滑なわけで、「急なバトンタッチは離職のリスクを高めることに繋がりがかねない。」と言われるところでもあります。このようなことから、現在「就職すること以上に仕事を続けることを大切に！」をテーマに、定着支援のあり方、地域連携の具体化について、自立支援協議会・就労支援部会や、ハートワーク連絡協議会等での議論を通じて、検討を進めています。



〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-22

法人本部

Tel 03-3202-0486
Fax 03-3202-0487

アジア研修交流事業

この事業は、アジアにおける障がい者福祉従事者のリーダー育成を目的とする国際協力事業として、1980年から実施しています。今年は昨年に引き続き、中国のホイリン知的障がい者サービスセンターから職員を1名お招きしました。ホイリンというのは中国語で「慧灵(智の魂)」と書き、孟さんという1988年の当プログラムの参加者が帰国後に設立した知的障がい者サービス機構です。現在14都市、80市区町村でサービスを提供しています。

今回の研修生、ゴォ・ティンさん(郭婷)は、西安のホイリンに入職以来、絵画部門のリーダーとして働いておられます。利用者の方々が持つ力を引き出す指導をしておられます。また、様々な場所で絵画作品の販売活動をしておられます。今回は、就労支援や運営方法を学びたいと希望し、このプログラムに参加されました。

8月はアガペセンター、9月・10月はアガペ東京セン

ターや外部の協法力人の施設で研修を行いました。国の福祉予算について多くの質問をしておられ、中国も国の支援がもっと増えるように希望すると強く語っておられました。

ゴォ・ティンさんは、日本で福祉分野の様々な人との出会いもあり、大変有意義な研修ができたとの大きな成果を報告され帰国されました。このような交流ができましたのも、皆様からの尊い寄附金と献金の賜物です。心から感謝申し上げます。



法人事務局

2014年度下半期から2015年上半期について、法人本部の主な動きをご報告いたします。

役員、評議員の新任期の開始

2015年9月は法人の役員・評議員の2年任期の改選期に当たります。この改選期に当たり、2007年9月より4期8年に亘り理事長を務めました禿 準一元理事長は9月10日の任期満了で退任し、新しく、山田貫司評議員が新理事長に選任されました。また、安部明郎氏が任期満了で理事兼評議員を退任し、塚越敏夫氏が新しく理事兼評議員

として就任いたしました。評議員では、新しく藤堂栄子氏と山田秀樹氏が就任いたしました。

新しい理事メンバーも加わり、更に一層理事会の働きを活性化し、法人経営のために努力を致したいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

法人本部事務所の耐震・改修工事

法人本部事務所のある、日本キリスト教会館の耐震・改修工事が2015年6月から2016年2月まで実施されることとなり、法人本部は隣接するアバコビルに仮事務所を設け、業務を行っています。

法人事業概要

■法人本部

- ・法人事務局
- ・アジア研修交流事業（公益事業）

■アガベセンター

- ・アガベ壱番館（施設入所支援・生活介護・短期入所）
- ・アガベ第1作業所（就労移行支援・就労継続支援B型）
- ・アガベ第2作業所（就労移行支援・就労継続支援B型）
- ・アガベサポートセンター（生活介護、一般・特定・障害児相談支援事業）
- ・知的障害者ショートステイ（短期入所）
- ・グループホームスマイルⅠ・Ⅱ（共同生活援助）

- ・座間市立もくせい園（生活介護）
- ・座間市サニーキッズ（障害児通所支援）
- ・アガベ診療所（公益事業）

■アガベ東京センター

- ・東京都板橋福祉工場（就労移行支援・就労継続支援A型・B型）
- ・新宿区立新宿福祉作業所（就労継続支援B型）
- ・スマイルマーケット高島平駅ナカ事業（公益事業）
- ・板橋区障がい者就労支援センター（公益事業）
- ・国立国会図書館複写受託センター（公益事業）

2014年度決算概要

2014年度決算概要は以下の通りです。詳細は、ホームページをご覧ください。

資金収支計算書

2014年4月1日～2015年3月31日

(単位：千円)

勘定科目	決算
事業活動収入計	1,808,038
事業活動支出計	1,873,820
事業活動資金収支差額	△65,782
施設整備等収入計	700,390
施設整備等支出計	814,402
施設整備等資金収支差額	△114,012
その他の活動収入計	259,708
その他の活動支出計	111,309
その他の活動資金収支差額	148,399
当期資金収支差額合計	△31,395
前期末支払資金残高	400,107
当期末支払資金残高	368,712

事業活動計算書

2014年4月1日～2015年3月31日

(単位：千円)

勘定科目	目録	算
サービス活動収益計		1,780,409
サービス活動費用計		1,883,863
サービス活動増減差額		△103,454
サービス活動外収益計		22,610
サービス活動外費用計		9,967
サービス活動外増減差額		12,643
経常増減差額		△90,811
特別収益計		597,237
特別費用計		517,828
特別増減差額		79,409
当期活動増減差額		△11,401
前期繰越活動増減差額		274,740
当期末繰越活動増減差額		263,339
基本金取崩額		309,743
その他の積立金取崩額		105,119
その他の積立金積立額		111,309
次期繰越活動増減差額		566,892

貸借対照表

2015年3月31日 現在

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	1,194,733	流動負債	867,364
		固定負債	393,694
固定資産	2,650,729	負債の部合計	1,261,058
		純資産の部	
		基本金	53,292
		国庫補助金等特別積立金	1,774,664
		その他の積立金	189,556
		次期繰越活動増減差額	566,892
		純資産の部合計	2,584,404
資産の部合計	3,845,462	負債及び純資産の部合計	3,845,462

※ 掲載しています写真は、全て利用者・保護者の了承を頂いております。